

# 第6回平和市長会議被爆60周年記念総会

## 総 会

2005年8月4日(木) 14:30~15:30

広島国際会議場フェニックスホール

- |       |   |
|-------|---|
| 議 長   | 秋葉忠利(平和市長会議会長、広島市長)   |
| 議案説明  | スティーブン・リーパー(平和市長会議事務局アメリカ代表)<br>アーロン・トビッシュ(2020ビジョン・キャンペーンマネージャー)   |
| 発 言 者 | ジョアン・ウィンチェスター(国連国際交流協調委員会副主席・NGO)<br>エレン・ウッズワース(バンクーバー市市議会議員・ドイツ)<br>ジョン・ヒプキン(ケンブリッジ市長・イギリス)<br>アイリーン・ミシュー(レベレット町代表・アメリカ)<br>フランク・リュウ(国連国際交流協調委員会幹事長・NGO)<br>ギセラ・カレンバッハ(欧州議会議員、ライプチヒ市代表・ドイツ)<br>美帆・シボ(マラコフ市、フランス平和自治体協会顧問・フランス)<br>アラン・ウェア(核軍縮議員ネットワーク・NGO)<br>上田文雄(札幌市長・北海道) |

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

では、総会に移りたいと思います。平和市長会議の規約に基づきまして、平和市長会議の会長を務めております私が、総会の議長を務めさせていただきます。ただ、各々のセッションの議長をご紹介させていただくことを、先にしたいと思います。

まずは、最上敏樹教授、国際基督教大学の教授でいらっしゃいます。総会の全体チェアパーソンをお務めいただきますと同時に、全体会議Ⅰ、Ⅱのチェアパーソンをお務めいただきます。

次に、アラン・ウェアさんをご紹介いたします。反核国際法律家協会（IALANA）コンサルタントのアラン・ウェアさんです。ニュージーランドからお越しいただきました。ウェアさんには、分科会Ⅰのチェアパーソンをお願いしております。

最後に、市民との対話集会のチェアパーソンを務めていただきます神戸大学の嘉指信雄教授でいらっしゃいますが、まだお越しではないようです。いらっしゃったらまたご紹介いたします。広島市民だけではなく、世界市民との対話集会ということです。

そして、広島平和研究所の浅井基文所長に、分科会Ⅱのチェアパーソンを務めていただきます。本日は所用により欠席されておりますが、また後ほどお越しになる予定です。

総会は、平和市長会議の加盟都市が議案審議を行う場としております。本日は平和市長会議に加盟されていない都市からもご出席いただいておりますが、皆様はオブザーバーとしてご同席いただきますようお願いいたします。だからといって、発言できないというわけではありません。メンバーでない場合もお話をさせていただくことはできますが、投票はできません。また各国政府およびNGOの代表の方、一般市民の方々もご参加いただいておりますが、こちらもオブザーバー参加ということで、傍聴をお願いいたします。なお、未加盟都市の皆様には、ぜひこれを機会に平和市長会議にご加盟いただきますよう、重ねてお願い申し上げます。たぶんいろいろお聞きいただきますと、そうしたいと思われるのではないかと思います。

それでは、議案Ⅰ「役員都市の選任」をご審議いただきますが、事務局が会議の準備を何か月もしておりますので、そちらから説明をしてもらいます。

**事務局（平和市長会議事務局アメリカ代表 スティーブン・リーパー）：**

こんにちは。お手元の資料をお持ちの方は、この議案が1ページに記載されております。ここで簡単に背景的なご説明をさせていただきます。

2000年9月に、ハノーバーで開かれました理事会で、核保有国におけるリーダー都市の育成等の活動強化策が承認されております。さらに、この平和市長会議規約により、理事の選任にあたっては、地域性を考慮することになっております。そして、これからご紹介する全ての都市

の市長が、平和市長会議に非常に甚大なご協力をいただいていたところから、副会長都市としてご就任いただくことを推薦させていただきます。

まず、アメリカ・オハイオ州アクロン市長のドナルド・プラスケリック氏です。プラスケリック市長はこの6月まで、全米市長会議会長をお務めになり、その会議の場で、平和市長会議と我々の2020ビジョンを強力に推し進めるべく決議を採択してくださいました。その決議を通じて、アメリカの数多くの市の平和市長会議加盟がかないまして、キャンペーンに対する大きな後押しになりました。

ゲーリー・ムーア氏は、ニュージーランド・クライストチャーチ市長です。オセアニアからは、これまで役員都市がありませんでした。ムーア市長は個人的に、この大義に強く支持を表明してくださいっております。ニュージーランドは、これまで核兵器に対する戦いでも、前面で戦ってこられました。そのような国のムーア市長をお迎えできることを、我々はとても大きな期待を持って喜んでおります。

そして、イタリア・フィレンツェ市のレオナルド・ドメニチ市長は、イタリア市長会の会長であり、また個人的にも秋葉市長に対して、先般、イタリア市長会は我々のキャンペーンを積極的に支持してくれると明言していただいております。

また、パトリック・バンクルンケルスフェン市長は、ベルギーのラクダル市長で、ベルギー国会議員でもあり、活動家でもあります。ベルギーのNATO施設内で、市民による大量破壊兵器の査察を試みて逮捕されております。そして、積極的に活動された結果、ベルギーから235都市が平和市長会議に加盟していただいております。

このような素晴らしい4名の卓越した市長さんを得られることは、我々にとっても非常にラッキーなことであり、会長の権限で理事に任命いたしました。その結果、会長市は広島、副会長市は七つ、そして役員都市は四つということになりますが、規約の第4条2項によりまして、新しい役員都市は総会における互選においてのみ、副会長都市に選任され得るということです。選任されますと、第5条により次の総会まで4年間、任期を務めることとなります。再任はその間、妨げるものはないということです。

第6回総会に先立ちまして、事務局は現行の副会長に全て意思を確認させていただきました結果、長崎市長、ハノーバー、マラコフ、マンチェスター、モンテルパ、ボルゴグラード各市長は、副会長都市を引き続きお受けいただけるという快諾を得ました。残念ながら、イタリアのコモ市長は、辞任を申し出られました。皆さんが、これらの候補者を全て選任されるとすれば、副会長都市は10都市、会長が広島市の秋葉市長で、役員都市は全部で11となります。ぜひこの任命、指名を承認していただきたいとお願いいたします。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

ありがとうございます。この議案に関しては理事会でも審議いたしまして、皆様にぜひこの件について、拍手でもってご承認いただきたいと思いますが、いかがでしょうか（拍手）。

ありがとうございました。それでは、新しい副会長の皆様には、第7回総会までリーダーシップを発揮していただきたいとお願いいたします。

次は議案2です。「平和市長会議の今後の取り組みについて」です。これにつきましても、事務局に説明をお願いします。どのようなこれから1年の計画になっているのか、また将来計画についてもご説明をお願いいたします。

**事務局（2020ビジョン・キャンペーンマネージャー アーロン・トビッシュ）：**

こんにちは。このキャンペーンは今まで、1年半ぐらい続けてまいりまして、素晴らしい結果を得ています。平和市長会議の名前が、もっと公に知られるようになりましたし、その評判、そして我々の名前が、力のある団体や人々の中でも知られるようになりました。これから1年のチャレンジは、特に今日私が申し上げたいことでもありますが、さらに我々が築いてきた評判をベースに、さらにキャンペーンを拡大することにあります。特に、皆様方にご考慮をいただきたいのは、我々の組織の歴史を書いております資料がございます。

見ていただきたいセクションですが、ずっと4ページぐらい続いているものになっています。もちろん、4ページを全て今ご高覧いただきたいということではありませんが、議案2について、私から説明させていただきます。いくつか読みたいところもありますけれども、それから通訳には気の毒ですが、いくつかアドリブで説明も加えたいと思います。何人かの演者の方々が、もう既に「我々はこのキャンペーンをさらに実行していくべし」というふうに示唆されました。また、核兵器を使用するという日が来るかもしれない、さらに核廃絶をする活動をやめてしまうということは、絶対してはいけないということが多数の意見であります。よって、我々のこれからの事業計画キャンペーンとしては、そのような具体的な態度をベースに取り込んだものであります。

キャンペーンは、イベントとプロジェクトからできています。こちらのほうは現行のものも含んでおり、イベントのほうは主要な三つのイベントからできています。このイベントは暦年でも会計年度でもなくて、「キャンペーン年度」と呼ばせてください。キャンペーン年度は、8月から次の8月までですので、私が「年度」と言ったときは8月から8月までの1年であると考えてください。これからのキャンペーン年1年では、三つのイベントを計画しています。

まずは世界軍縮週間、これは国連デーの10月24日から始まる期間の中で、世界の各都市に

対して、地元の教育など各都市に実施可能な活動を広めてもらうように呼びかけます。このタイミングが重要なのは、第一委員会がニューヨークで開催する時期でもありますので。これはプロジェクトとも関わる話です。

2番目はバンクーバーでのイベントで、2006年6月です。本日はバンクーバーの代表もいらっしゃいます。彼に聞いていただければ詳細がわかると思いますが、特に非常に素晴らしい偶然、拒否できないような素晴らしい偶然は、ワールド・アーバン・フォーラムが、少し重複して、ワールド・ピース・フォーラムの少し前に開かれるのです。ですから、我々、平和市長会議としても、メンバーの方々がここに集い、そしてこのワールド・アーバン・フォーラムに参加し、また平和活動家の皆さんと一緒に、様々な活動を実行していきたいと思っています。

三つめの大きなイベントで、2006キャンペーン年度において行おうとしているのは、国際司法裁判所（ICJ）の勧告的意見が出てからの10周年記念行動です。満場一致で普遍的な義務があること、そして核不拡散、そして軍縮を実行していくことが必要であるという示唆が、勧告的意見として出されてから10周年です。しかし、まだ遵守されていない事実があります。よって、10周年にあたる7月の1か月に、ハーグにおいて平和集会を行い、また世界からの参加者の方々、団体と協力し、そして各都市においても、様々な10周年記念の行動を起こしたいと思っています。

これらが平和市長会議の中でやっていきたいイベントであり、そして参加されていない方も、これからもこのようなイベントに関してさらなる参加をされるように、そしてまたさらなる平和市長会議への加盟も、これによって募りたいと思っています。こういったイベントが成功することができるのは、長期的な日常的なプロジェクトとして取り組むことによるものであり、そうでなければ1回だけのイベントで成功することはできないのです。そして一般の人々のサポートを得るためにも、このようなプロジェクトこそが必要です。

それで、いくつかのプロジェクトで考えているものがあります。もう既に政府に働きかけているものです。NPT再検討会議で結果が出ていないこと、そして軍縮会議でも結果が出ていないこと、これらの中で問題となっているのは、軍縮委員会での問題でもありますが、全会一致方式を取っているということです。拒否権が数か国から出るがために、結論を出すことができないという欠陥があります。そこで、国連第一委員会と同じように全会一致ではなく、多数決で決定できる新しい補完的な特別委員会を設置するように、働きかけたいと思います。そして、2020年までに核のない世界を作り出したい、その実現をしたいと考えています。国際社会に対して、新しい道を開きたいと考えています。もう既に大きな関心が寄せられておりますので、これを実行していきたいと思っています。国連第一委員会がこの特別委員会設置に関する投票をする時期、こ

これは関連決議の投票日ですが、これが10月で日にちが迫っておりますので、ぜひ関係する国々に関与していただきたいと思います。

二つめのプロジェクトですが、アスク・ザ・ピープル・キャンペーンです。これは50か国ぐらい、35か国になるかもしれませんが、国のレベルにおいて、マスコミなどに核兵器に関する世論調査を行っていただくものです。その世論調査の目的は、ロウチさんが先ほどおっしゃった核兵器に関する世論が核保有国の政策に反映されていないということを明らかにするため、その実態をつかむことです。そして、政府に対して、世論調査の結果を知らしめるためです。この1年間で核保有国や核保有能力を持つ国、そして非核兵器国においても、この調査を行い、どこで世論調査をしても、人類が求めているのは自分が生きている間に、そして子どもの代までには必ず核兵器を廃絶してほしいということであることを明らかにするという事です。

三つめのプロジェクトです。ニューヨークでお会いした市長の方のお顔もたくさんありますが、ランド・コーポレーションのプレゼンテーションを覚えていらっしゃいますか。ランド・コーポレーションは、米国の国土安全保障省から要請を受けて、ロサンゼルス隣のロングビーチの港湾で核攻撃があったならば、経済的なインパクトがどうなるかを調査するように求められていたのです。その調査結果がニューヨークで発表されました。まだ完全な形で経済的なインパクトがどれぐらいであるかということの破壊性、そして世界貿易に対するインパクトは測れていないと言っていました。しかし、技術的に非常に高度に進んだところが襲われた時にはどうなるか、そしてジャスト・イン・タイムの貿易のシステムに、どのようなインパクトがあるかということの調査も必要であると言及されました。東アジアやヨーロッパにおいても、同じような調査が必要であると思います。これらの調査を行うことによって、政治的なリーダー、そして世界中の人々に知らしめたいと思っているのです。たまたまですが、ロングビーチ市長は全米市長会議の会長でもいらっしゃいますので、私どもは非常に強力な同志を持っているということです。

次に、地元においての様々な平和会議への参加です。平和市長会議は、世界でいろいろな同盟の同士を集めなければなりません。地域においても国際レベルにおいても、いろいろな組織と同盟を組んでいくことが必要です。そして我々もこのような会議に招へいされることがありますし、平和市長会議のみならず、平和会議やそのような会議に招へいされることが多々あるわけです。よって我々は、そのような会議に代表を送ることが必要です。市長でなければ、市長の下の事務局の人でもいいので、招へいされたならば参加することを主体と考えております。

次に、アドバイザー・コミティーを作りたいと考えています。今までは、キャンペーンはインフォーマルで有益な形でエキスパートの方、平和のエキスパートの方、元の市長の方々から、アドバイスを集めてきました。それで、我々はその諮問機関を公式なものにしたいと思っています。

す。それによって彼らのアドバイスを、もっと一貫的な形でうまく生かしたいと思っています。

また、メンバーのデータベース管理をしっかりしていきたいと思っています。加盟国がだんだん増えてきましたから、コミュニケーションをさらに改善し、広報をしっかりすることが必要です。コミュニケーションのツールとしては、ホームページのデザイナーをちゃんと使って、利用しやすい効率的なホームページを作成したいと思っています。

また、これから2・3日の間に話が出てくると思いますが、いくつかの教育プロジェクトも推進していきたいと思っています。

それから、資金を集めるという活動も必要です。それで、ドルのところの数字を見てください。この報告書にドルが出ていますが、事務局運営と海外活動拠点機能の整備のために年次の38万3,000ドルというお金が予算化されており、今までは広島市と長崎市によってこれがカバーされております。そして我々の気持ちとしては、これからもそうお願いしたいということです。しかし、今説明したキャンペーン活動は、さらにそれにプラスしてお金が必要になります。この追加の部分は、長崎市と広島市にお願いすることはできないということになります。1,080のうち二つの市だけです。組織に対するインフラ、それらのコスト、そしてこのキャンペーン・イヤーでやっていこうというコストは、16万ドルになります。ですから、理事会の決定というより勧告ですが、平和市長会議のメンバーがアクティブな形でこの16万ドルを何とか埋める努力をしていただきたいということです。そしてプランどおり、キャンペーンを実行していただきたい。そして、できればさらに拡大し、さらに資金を集めることができればという思いを持っております。純粹に、これは数学で計算していただきますと、提案ではないのですが、キャンペーン実施のための経費54万2,000ドルから、広島市と長崎市の負担38万3,000ドルを引いて約16万ドルですから、それを約1,000都市で割ると160ドルになります。あまり大きなお金ではありません。

そして、いくつかの他のソースからも、資金調達を可能にするという計画があります。各都市の自主的な寄付もありますし、基金からの補助も考えられます。いくつかのプロジェクトに関しては、基金から補助を受けることも予定しています。また、他のNGOの協力を得て、企業や個人に直接支援をお願いして、平和市長会議のための資金を獲得したいと思っています。秋葉市長もこの広島市において、自ら活動しておられて、非常に前向きなレスポンスがあったということです。他の市長にも、同じようにご協力をお願いしたいと思っておりますし、そうすると他のNGOの協力も得られて、ともに資金活動をしていきたいと思っています。

その事例として、グローバル・ピース・メーカーズ・アソシエーションが米国にありますが、EPOPプロダクションと契約して大きなコンサートを予定しています。これにより、かなり資

金が調達できるのではないかと思います。これは次年度のキャンペーン年用です。

では、次にページをスキップして5ページの収入の話をさせていただきます。総会としては、4年間の予算を担当されるということですのでご説明しますが、このあとの3年について、詳細の予算はここには計上しておりません。活動がいろいろある事務局の経費もありますし、また、理事会がキャンペーン年の最後の2007年8月に予定され、そして次の総会が開かれます。今まで長崎、広島市がその経費を負担してこられました。私どもとしては、できるだけ資金調達をそれぞれが行い、そして強力なキャンペーンをしていきたいと考えております。ここで予算として出しているものは、かなり大まかなものですが、さらにこれを詰めていきたいと思っております。ありがとうございました。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

ありがとうございました。それでは、議論にしたいと思えます。アイディアとか、何かご意見、ご質問のある方、それぞれご発言のある方は挙手をお願いします。同時通訳が入っておりますので、必ずマイクを通じて発言をお願いします。どなたか発言を希望される方、いらっしゃいますか。この議案に関する発言です。はい、どうぞ。どの都市でいらっしゃるかご所属を。

**国連国際交流協調委員会副主席 ジョアン・ウィンチェスター（NGO）：**

国連国際交流協調委員会のジャネットと申します。二つ申し上げます。皆さん、核兵器に平均いくらかかるか、ご存じですか。そして、核兵器を作り、維持し、貯蔵するために、世界全体でいくらかかっているかご存じでしょうか。このささやかな予算との対比で、ちょっと申し上げました。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

これは数字的なご質問ですか。お答えいただけるのであれば、どうぞ。私は答えを持ち合わせてはおりません。どなたかご存じの方、いらっしゃいますか。お約束いたしますが、事務局そして専門家の友人の方がいらっしゃいますので、その数字を皆様にご提供したいと思います。非常によいご指摘です。私どもが今、核兵器を作り、維持することにかかわる経費と、私たちが今提案している予算との対比という点で、非常にいいポイントだと思います。世界全体に示すという点でも非常にいいし、また資金調達努力においても、我々の努力に大きく貢献するものだと思います。

**国連国際交流協調委員会副主席 ジョアン・ウィンチェスター（NGO）：**

もう一つ申し上げますと、私どもアジア太平洋のECC国連コーディネーター、そしてその他日本のコーディネーションを担当しているものが、東京でミーティングを開いてまいりました。これはもう一人、日本の衆議院の方も参加されたのですが、平和市長会議との関連において、皆さんから資金を求めたのではなく、コンサートをアジアで開こうという話が今来ております。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

ありがとうございます。音楽家の方、その他タレント、有名人の方、私が個人的に存じ上げている方が、他にもいらっしゃるようで、そうした方も参加したいと言っている方がいます。そのコンサートに協力して下さる方の数は、これからどんどん増えてくると思います。皆さん、何か提案とか知っている方があれば、事務局にご連絡ください。そうすれば、私たちの活動評価になります。はい、どうぞ、次の方。

**バンクーバー市市議会議員 エレン・ウッズワース（カナダ）：**

こんにちは。エレン・ウッズワースと申します。バンクーバー市長代理を務めております。皆さんが、バンクーバーのワールド・ピース・フォーラムに参加くださることを大変うれしく思っております。非常に大事な時だと思います。都市が持続可能な平和な世界を作るための努力ということで、今、大事な時期に来ております。若い人が平和運動に参加することも重要です。その前に核兵器と戦い、軍縮と戦ってきた人と一緒になって、若者が協力することが必要です。平和の予算、そして核を構築するための予算との対比も重要だと思いますが、ちょっと私のことを皆さんに知っていただきたいということで、発言させていただきました。また個人的に、いろいろ皆様とお話したいと思っています。ありがとうございました。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

我々多くの者が、バンクーバーを訪れると思いますが、その準備ということでバンクーバーの会議で計画していらっしゃるのと、私たちがその他の関連で何かできることがあれば、この会議の時に、またいろいろお話もできればと思っています。ありがとうございました。発言御礼申し上げます。

他の方、どうぞ。

**ケンブリッジ市長 ジョン・ヒプキン（イギリス）：**

秋葉市長、発言の機会をいただきありがとうございます。ジョン・ヒプキンと申します。イギリスのケンブリッジ市長です。ちょっと強調したい点があります。それは地元活動の重要性です。

ケンブリッジは小さいながら、よく知られている町です。例えば我々地域社会で何が起きているか、イラクの戦争に反対することで、どういうことが起きているか例を申し上げたいと思います。市議会議員は、例えば毎週土曜日の朝、市場に顔を出します。買い物に一般の人たちが来る、そこで請願書の署名活動をしておりました。そして、まずそれを市議会に提出しました。そして市議会に対して、正式にイラク介入反対を決議し、その決議が採択され、その後さらなる決議がケンブリッジの議会に提出されました。そして請願をすれば、自分の政府から批判されると言いながらも、市長は市民の側に立ちました。その後、ケンブリッジ代表の欧州議会の議員が、この請願活動を支持しました。

私が申し上げたいのは、今朝おっしゃったいろいろな活動は素晴らしいものです。しかしながら、市民や市議が一般の人々の中に入って、自らの地域社会の政治家に力を与える、そして政策を展開していく力を働かせることが重要だと申し上げたかったわけです。秋葉市長、広島に御礼申し上げて、発言を終わります。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

ありがとうございます。非常に素晴らしいご報告をいただきました。ケンブリッジ市における勇気の事例だと思います。今おっしゃったことに加えて申し上げますが、アメリカのケンブリッジに、私は住んだことがあります。マサチューセッツ州ケンブリッジも、また非常に積極的に同じような努力をしている町で、両ケンブリッジが平和に向けた努力のお手本であることは、素晴らしいと思います。広島に、ようこそお越しくださいました。ありがとうございます。ほかにコメント、ご意見がある方、どうぞ。

**レベレット町代表 アイリーン・ミシュー（アメリカ）：**

こんにちは。アイリーン・ミシューと申します。アメリカのマサチューセッツからまいりました。こちらに来る直前にいい知らせを受けました。マサチューセッツの代表者の一人が、決議文を書き、それを下院議員に出しました。6人に支持を受けて出したものですが、マサチューセッツの下院議員が、平和市長会議を支持するという決議文です。これは我々の努力の継続に大いに役に立つものです。ケンブリッジの皆さん、そして会員の皆さんに、ここで御礼申し上げたいと思います。決議文を採択してくださいました。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

素晴らしいご報告をいただきまして、ありがとうございます。マサチューセッツからの発言でした。マサチューセッツ州にいたものとして、そして私はバーモント州にもいましたが、80年代、バーモント州は、まさにこうした反核平和の努力の最前線にいた州ですが、こうした傾向がさらに全米に広がることをうれしく思います。アメリカの市長の方々、そしてフランスその他の国々の方々が努力されて、州議会においても平和市長会議においても、努力してくださっていることを感謝します。もちろん、アメリカの方々とも努力したいと思っています。他にどうぞ。

**国連国際交流協調委員会幹事長 フランク・リュー（NGO）：**

フランク・リューと申します。ニューヨークからまいりました。国連国際交流協調委員会です。短いアナウンスです。特別イベントを予定しております。国連で60周年を称えるものです。ニューヨークのウォールドルフで鐘を鳴らします。国連の上層部も参加します。調和、平和、戦争反対ということで、鐘を鳴らすイベントを予定しています。参加希望市長の方、ぜひお越しください。それぞれの都市で同じ回数、鐘を鳴らしていただくという協力も、お願いしたいと思います。ありがとうございます。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

情報ありがとうございます。他にどうぞ。

**欧州議会議員・ライプチヒ市代表 ギセラ・カレンバッハ（ドイツ）：**

秋葉市長、ありがとうございます。欧州議会議員とご紹介いただきましたが、公式に申し上げたいのは、私はドイツのライプチヒ市の代表としても、今回ここに来ております。ライプチヒ市長からの伝言を秋葉市長に今夜お伝えしたいと思っています。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

ありがとうございます。バッハのコンサートが8月5日の夜予定されています。平和のコンサートです。ライプチヒは、バッハとのゆかりのある土地ということで、ライプチヒ市長からメッセージを私もいただいております。バッハの名曲、そして平和への努力というメッセージをいただきました。市長にも心から御礼をお伝えください。ありがとうございます。他にご発言がありますでしょうか。

**発言者不明：**

私から、皆様方に知っていただきたいことがあります。コネティカット州の上院は、34対0の決議をもって市長の決議を支持しました。コネティカットではさらに提案を出しており、マサチューセッツの下院と一緒に、二つの院と一緒に、決議を採択しております。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

ありがとうございます。意を強くするお言葉をいただきました。どうやら米国の立法府は、動きを取り始めたようですね。そして我々に協力してくださるということで、核廃絶、核軍縮のために歩を進めてくださるようです。

他に皆さん、何か意見やご質問ございますか。はい、どうぞ。

**マラコフ市、フランス平和自治体協会顧問 美帆・シボ（フランス）：**

私は日本人ですが、フランスに30年暮らしております。フランス平和自治体協会は、平和市長会議のフランス支部として、フランスの市町村及び県も参加して、平和市長会議の運動を広めるために作られました。フランスの市長さんには、県議員や国会議員を兼ねていらっしゃる方もおりますので、フランスの平和市長会議には、市長さんだけでなく県の代表者も加わって、今回参加しております。それで私たちはウェブサイトを作りまして、そこでも平和市長会議の運動を紹介しているほか、リンクを作りまして、直接、平和市長会議にコンタクトできるようにしております。

また、今年は被爆60周年で、たくさんのマスコミが、私のフランス広島・長崎研究所やフランス平和自治体協会に問い合わせがありました。昨日の夜もフランスからのラジオインタビューで、今日の平和市長会議の宣伝をしました。私はもっともっと、この平和市長会議の存在そのものを、皆さんの国々で宣伝していただきたいと思います。それが今後の運動を広げていく大きな力になると思いますので、よろしく願いいたします。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

意を強くするお言葉をいただきまして、ありがとうございます。またご提案もいただきました。そして一生懸命もっと頑張ろうということで、そして市民もまたこのような平和市長会議があるのだという存在を知り、我々の目標に向かって核廃絶に向かって、2020年に向かって、我々の力を結集していきたいと思います。ご提案ありがとうございます。はい、どうぞ。

**核軍縮議員ネットワーク（PNND） アラン・ウェア（NGO）：**

秋葉市長、ありがとうございます。アラン・ウェアです。核軍縮議員ネットワークの者です。軍縮のためのジャンプ・スタートというふうに、このように英語で書いていらっしゃると思います。それで我々としては、核軍縮の議員ネットワークとして、平和市長会議と協力してやってきております。そしてニューヨークにおけるNPTの準備会議においても、また議員の声をさらに結集して、そのような交渉を実施しようということをやっています。これからも平和市長会議と協力していきたいと思っています。このプロジェクトは、援助も募っており、その内容のコピーはこの会議中も準備しております。

**事務局（2020ビジョン・キャンペーンマネージャー アーロン・トビッシュ）：**

ありがとうございます。私がさっき申し上げたことについてですが、項目の説明のところ、諮問会議を作るということがありました。それで資料の5ページを見ていただきますと、この中で二つめの項目として、さらに実施可能な活動をするということで、各国政府との協力が載っております。さっきの話ではさらっと流しましたので、我々としてはアイデアを出して議論しておりますので、この中から各国政府との協力も出てくるということ、そしてまた今日皆さんがおっしゃったようなところから、いい結果が出てくると思っています。実施可能な活動としては、他の市長、市長の組織、そして核軍縮議員ネットワークなどと協力することが重要です。ありがとうございます。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

一つ意を強くするコメントとして、私どもは署名をいただきまして、そしてこのアピールに対して、我々に対してサポートしてくださるという文書をいただいておりますので、本当にありがとうございます。このような形で、非常に有効になってきたと思っております。

はい、どうぞ。手を挙げていただきましたならば、マイクをお持ちいたします。

**札幌市長 上田文雄（北海道）：**

反核、核廃絶は、広島と長崎に任せておいていいということではございません。日本の全ての国民が願うものです。私はまだ平和市長会議のメンバーではありませんが、日本にも、そういう都市がたくさん生まれてくるのだという運動を展開できればというふうに考えております。多くの国から、たくさんの皆様方が広島に集まれ、このような素晴らしい議論をされることを心から歓迎し、秋葉市長そして伊藤市長のこれまでのご努力、そして皆様方の力強い核廃絶に向けた

運動に対して、心から敬意を表し、私たち札幌市民もしっかり手を組んでやっていきたいと思えます。

札幌市庁舎の前にオリンピックの聖火台があります。1972年冬季オリンピックが札幌で開催されました。その聖火台に8月6日広島からいただきました平和の火を点すという運動をし、そして多くの市民が核廃絶に向けた運動に取り組み、皆さん方と活動、そしてこれから一緒にやっていくのだ、頑張るのだという気持ちを固めていきたいと考えているところです。一つの報告ということで、お聞きいただきたいと思えます。ありがとうございました。

**議長（広島市長 秋葉忠利）：**

どうもありがとうございます。またいろいろご努力いただきまして、我々の活動を、日本全体に広げていただいておりますことをお礼申し上げます。

他に何かご意見をお持ちの方、発言を求められる方、いらっしゃいますか。挙手がないようですが、よろしいですか。

それでは、これで議案2、すなわち我々の将来の行動計画、活動計画についての議案は、皆様にご承認いただけるものと解釈いたします。もう一度、ご賛同いただける方、ご承認いただける方、拍手をお願いいたします（拍手）。ありがとうございました。

それでは、今事務局から説明がありましたとおり、進めてまいります。我々が達成しようとしているのは歴史上、初めてのことも言えると思えますけれども、都市が人類の生存に関わる問題に、影響力を及ぼそうとしていることであるわけです。

現時点では、我々はもう一つ、史上初めてのことをやり遂げようとしております。すなわち、これほどの規模の国際会議を開催するという、これはやはりスケジュールを前倒しで進めているものと言っていいと思えます。したがって、このような会議で、これほどまでにスケジュールが予定よりも早く進むことも、稀なことだと思いますが、それでも30分、20分ぐらい今早まっております。そこで、全体会議、分科会で発言を希望しながら時間があまりないために発言枠が得られなかった都市もあるかと思えます。突然ではありますが、全体会議、あるいは分科会での発言の場がないけれども、ここでこの時間を使って発言したいという方がいらっしゃれば、各都市に5分ほど差し上げたいと思えます。3～4都市ぐらいにご発言いただけるのではないかと思います。もしそういった希望があれば、ぜひ今受け付けたいと思えますが、どなたか発言を希望される方はいらっしゃいますか。準備もなく突然そのようなことをお伺いして申し訳ないと思えますが、もしぜひ後ほど、また発言なされたいという都市があれば、どうぞ意思表示をしてください。

それでは、このセッションはこれで閉会といたします。